

現在の町並みと松岡藩城下町

正徳三年頃
西暦 1713年頃

十二曲り散策のご案内

松岡十二曲りー江戸の息吹がのこる通りー

江戸時代の松岡の雰囲気を感じられるのが、松岡藩政時代の大通り・旧勝山街道です。何度も直角に折れ曲がっていて、曲がり角の数を取って「十二曲り」と呼ばれます。これは江戸時代の城下町の道によく見られ、「鍵の手」「鍵曲り（かいまがり）」と言います。

敵が攻めてきても簡単に通り抜けられないように、また、通りの向こうが見通せないように、わざと直角に曲げて造られました。あの曲がり角の先には何が待っているでしょう？ 素敵な景色？ それとも運命の出会い？ 街を歩いて、確かめてみませんか？



松岡藩十二曲り
散策のご案内

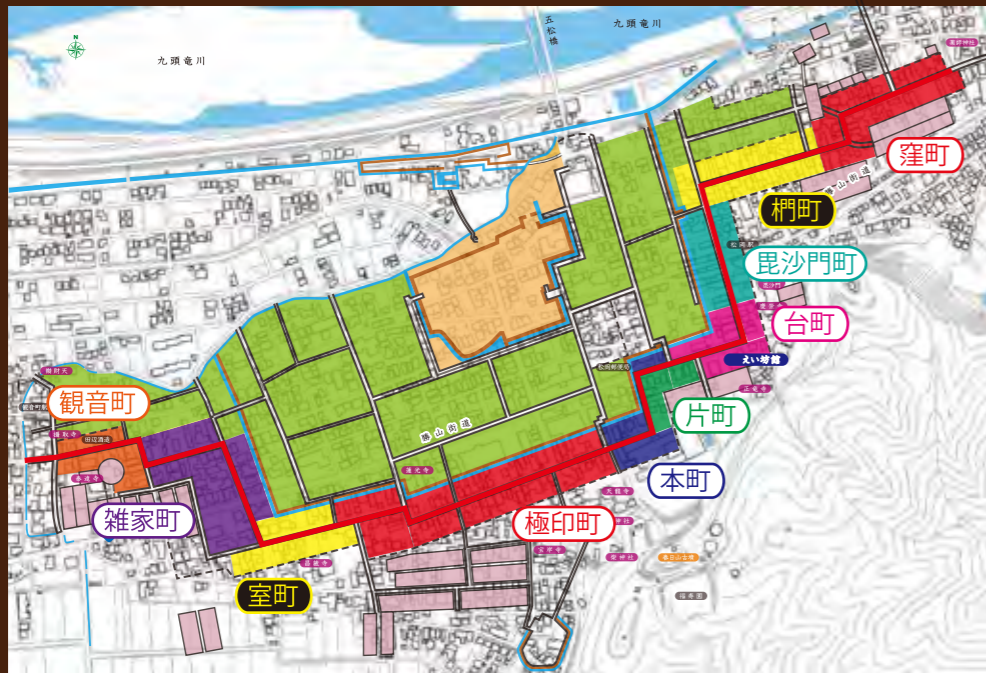
- 十二曲り案内看板
- 十二曲り案内シール
- 十二曲り散策コース
- 藩主御館位置
- 武家屋敷
- 町家敷地
- 足軽・中間屋敷地
- 御堀
- 土塁

松岡藩誕生—お殿様がやってきた—

1645年、福井藩を割って松岡藩が誕生しました。藩主は松平昌勝。徳川家康の曾孫に当たる人物です。新たに誕生した藩ですから、藩主が暮らす館や家臣団の住居など、まちを一から作らねばなりません。まちとして選ばれたのが、芝原郷にあった室・柵・窪の三ヶ村でした。

まず藩主の館が決められ、その周りに家臣団の屋敷が配置されます。そして、勝山街道を大通りとして、町人が暮らす城下町を置きました。藩主や家臣団とその家族の生活を支える様々なお店が新たに必要になるのです。様々な職種の人が新たに松岡に集ってきました。

城下町は区割りされ、それぞれ町名が付けられました。室・柵・窪の3町は元々あった村名から取りました。本町・片町・雑家町・極印町・台町・毘沙門町・観音町などは新たな町名です。現在までに何度も町名変更があり、松岡藩時代の町名はほとんど見られなくなりました。



江戸時代の町名

松岡藩廃藩後—残された松岡のまち—

1721年、松岡藩は無くなります。松岡藩二代藩主が福井藩主になり、福井藩に統合されたのです。藩が無くなると、家臣団も藩主に付いて引っ越ししてしまいます。その上、藩士を相手にしていた商人・工人も移動してしまったり、仕事が無くなったり。松岡の町は大きく衰退しました。

これを救うため、福井藩主が様々な手を打ちます。松岡ならではの様々な産業が興りました。酒造はその代表で、最盛期には十七軒の造り酒屋があったそうです。また、中世以来の伝統産業である鋳物も盛んに行われました。他にも、芝原用水の管理に必要な竹を用いた竹細工や良質な土を用いた瓦・焼き物。幕末には福井藩の火薬製造局が出来るなど、活気を保ちました。

今も松岡にある二軒の造り酒屋は、地域の宝である水を活かし、全国に誇るお酒を造り続けています。

松岡十二曲り—まちに残る江戸の息吹—

今でも松岡藩政時代の大通りを歩くと、江戸時代の雰囲気を感じられます。何度も直角に折れる道。江戸時代からほとんど変わっていない道筋には、レトロな雰囲気をまとった町家風の建物が残っています。「室の長者」の伝説がある摂取寺やギンモクセイが美しい昌蔵寺、松尾芭蕉が立寄った天龍寺。歴史ある寺院も見所。

曲がり角を曲がったら、きっと素敵な風情があなたを待っています。



お館の椿 (昭和10年頃)



造り酒屋 (昭和10年頃)



絵
図

まち
ある
き

ま
つ
お
か